



大阪労連・福岡議長

大阪春闘共闘と大阪労連春闘討論集会は、11月29日・30日（土・日）に1泊2日で淡輪ハウス事務局次長の司会進行で始まり、冒頭に主催者を代表して大阪労連福岡議長があいさつ。福岡議長は、「25春闘では我々が組織している多くの中小企業では物価高騰を上回る賃上げになつていない。大企業のみ大幅な賃上げを実現している。26春闘では、賃金の底上げが重要なたたかいになるが、どのような要求を練り上げて春闘に挑むのかが問われる春闘になり。対話と学びあいで組織を大きくしていこう！」と呼びかけました。その後に、全労連・秋山議長を講師にお招きして約1時

26春闘討論集会に建交労も結集

長があいさつ。福岡議長は、「25春闘では我々が組織している多くの中小企業では物価高騰を上回る賃上げになつていない。大企業のみ大幅な賃上げを実現している。26春闘では、賃金の底上げが重要なたたかいになるが、どのような要求を練り上げて春闘に挑むのかが問われる春闘になり。対話と学びあいで組織を大きくしていこう！」と呼びかけました。その後に、全労連・秋山議長を講師にお招きして約1時



連「全国一律最低賃金1,500円を実現し、2,000円をめざす。」に対し、大阪労連「全国一律最低賃金1,700円を実現し、2,000円をめざす」となっています。大阪労連の1,700円をめざすという根拠となるのが必要性経費調査の結果を踏まえたものであり、生計費原則に基づく要求額になつていたのが特徴でした。

そして、1日目の分散会は、4名～5名で9グループに分かれて、テーマは、「要求づくりのためにはどんな工夫をしていいのか。みんなの要求にするためにどうすればよいか。すべての職場で要求書を提出するために」について50分間交流し

2日目は、早朝から8時から10時まで、各グループに分かれて、テーマは、「要求づくりのためにはどんな工夫をしていいのか。みんなの要求にするためにどうすればよいか。すべての職場で要求書を提出するために」について50分間交流しました。



淡輪ハウス

ました。休憩後には、2度目の分散会8つのグループに分かれて、テーマは、「組合に入つていない人も、みんなで一緒に声を上げて行くために。労働組合の見える化はどうすればいいか。担い手づくりや世代継承について」50分間交流しました。その後に各分散会からテーマに沿った交流の報告がありました。この2日間を通じての感想は、『様々な産別の闘いのたたかいがどうだつたのか。地域で一緒に出来ること』について70分間交流し、1日目が終了しました。

2日目は、早朝から8時から10時まで、各グループに分かれて、テーマは、「要求づくりのためにはどんな工夫をしていいのか。みんなの要求にするためにどうすればよいか。すべての職場で要求書を提出するために」について50分間交流しました。

建交労大阪からは、荻田書記長が参加しました。

大阪争議支援総行動に 建交労大阪から8名が結集

大阪からすべての争議を解決するために、12月4日（木）午前8時15分から大阪争議支援総行動が行われました。早朝は、

淀屋橋駅前で各争議職場から訴えがあり、通勤途上の人々にビラを配布しました。建交労大阪からは、紺ホールディングス



淀屋橋駅前・早朝宣伝



若松浜公園・決起集会

グループの職場組合員から訴えがありました。職場組合員は、「ユニバーサルラボで女性組合員が不当解雇になつた。その後ももう一人の女性組合員も不当解雇になり、労働委員会で和解することになつたにもかかわらず、

会社はユニバーサルラボに組合員一人を残し、他の従業員をすべてグループ傘下の違う事業所へ移しました。そして、残つた組合員に対し、退職勧奨を行い、それでも辞めないのであれば解雇する」と恫喝する有様です。会

社な不当な行為を許さず断罪されるまで闘う。」と決意を語り訴えました。その後は、若松浜公園で決起集会を行いました。決起集会後は、2班に分かれて行動。1班は、日本公認会計士強化とロイヤルホームセンターの親会社にあたるダイワハウス本社前での抗議宣伝と要請行動。2班は、紺ホールディングス、門真市役所、大阪大学への要請団を派遣して行動に取り組みました。

特にダイワハウス前では、ダイワハウスの会社関係者が5人も抗議しているところに現れ動画を撮るなど、労働組合への敵視が露骨でした。

参加者は全体で80名。建交労大阪からは、大阪合同支部5名、此花支部1名、関西ダンプ支部2名が参加しました。

大阪労連民間部会第35回定期総会は、12月10日（水）午後6時から国労大阪会館1階ホールにおいて開催されました。

化学一般の海老原副部会長の司会進行で始まり、主催者あいさつは、建交労大阪の荻田部会長。荻田部会長は、「自



民間部会・荻田部会長



国労大阪会館1階ホール

民・公明与党が26年間続いた連立政権が解消したものの、少数与党となつた自民党は、新たに自民・維新で連立を組み市政権が誕生した。しかし、高市首相は所信表明演説でアメリカ言いなりむ日本維新の会の意向を

その後に福祉保育労の寺田事務局長が2025年活動報告、2026年活動方針と新役員体制を一括して提案され、すべての議案が採択されました。全体の参加者は26名、建交労大阪から前村執行委員長と荻田書記長が参 加しました。

意識した政策をふんだんに盛り込んだ。国民の暮らしを第一に考える政治への転換が必要であり、26春闘では賃金の大幅な底上げで格差と貧困をなくす政治へ転換させるため、全ての民間組織が仲間の要求で結集し、全組合員が賃金闘争へ決起する運動を追及しようと！」と呼びかけました。来賓あいさつは、大阪労連・福岡議長でした。

大阪労連三四労の会第22回年末学習交流会を開催



生協労連・平田部会長

大阪労連三四労の会第22回年末学習交流会は、12月15日(月)18時30分から国労大阪会館大会議室で開催されました。福祉保育労の三浦さんの司会進行で始まり、会長あいさつは、生協労連・平田会長。その後に福祉保育労・寺田書記長をお招きして、「その転職、ほん

まにええの！今こそ組合の出番！」をテーマに約1時間学習しました。この学習会は、大阪労連三四労の会の会議で協議した問題意識について出された内容をどのように取り組めば良いのかというところを詳しく解説した学習でした。現在、「雇用の流動化が深刻化してい



30代・40代・各産別組合員

る。少しでも高い賃金を求める、また、少し嫌なことがあれば転職しがちだが、労働者にとって、本

働環境を良くしようという発想ではなく、良い環境を求めて仕事を転々と

する人が増えている。転職した先でも結局、苦労したり、うまくいかずに、また転職を繰り返す。今いる自分の職場環境を変えるために労働組合はあって、組合運動に確信が持てるお聞きしたい。労働組合で実現する理想の職場とは、「などについて問題点と労働組合運動を中心で学習しました。感想は、労働者が唯一持っているのは数の力、使用者側は圧倒的な力を持ち労働者を分断する。つまり、圧倒的な力を持つ使用者に対抗するには数の力です。労働者が団結して多くの労働者が立ち上がり、使用者側と闘うことで職場環境の改善をはかることが重要だと感じました。全体の参加者は、38名。建交労大阪からは、関西合同支部・國谷さんと荻田書記長が参加しました。